

令和3年5月19日

【照会先】

政策統括官付参事官付世帯統計室  
縦断調査管理官 佐藤 恵治  
室長補佐 佐々木 和之(内線 7473)  
(担当) 出生児縦断統計業務係 (内線 7566)  
(代表電話) 03(5253)1111  
(直通電話) 03(3595)2321

## 第10回21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）の概況

### 目 次

調査の概要 .....	1 頁
結果の概要	
1 母の就業状況の変化 .....	3 頁
2 子どもの生活の状況	
(1) 携帯電話（スマートフォンを含む）の保有状況 .....	5 頁
(2) コンピュータゲームの利用状況 .....	6 頁
3 子どもの日常生活で気になることや悩み .....	7 頁
統計表 .....	9 頁
用語の定義 .....	14 頁

この結果は、厚生労働省のホームページにも掲載されています。

アドレス（[https://www.mhlw.go.jp/toukei\\_hakusho/toukei/](https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/toukei/)）

# 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、同一客体を長年にわたって追跡する縦断調査として、平成 22 年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察するとともに、21 世紀の初年である平成 13 年に出生した子を継続的に観察している調査との比較対照等を行うことにより、少子化対策等の施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的としている。

## 2 調査の対象

全国の平成 22 年（2010 年）5 月 10 日から同月 24 日の間に出生した子を対象とし、厚生労働省が人口動態調査の出生票を基に調査客体を抽出した。双子、三つ子についてもそれぞれの子を対象としている。

第 10 回調査における対象児は 10 歳（小学 4 年生）である。

## 3 調査の時期

令和 2 年 5 月 25 日とした。

（参考：第 1 回調査から第 6 回調査は 12 月 1 日である。）

## 4 調査事項

父母の就業状況、家族の状況、子どもの状況、学校生活・放課後のようす、家庭学習、読書習慣、子育てに関する意識、子育て費用等

## 5 調査の方法及び結果の集計

調査票の配布及び回収は郵送により行った。第 10 回調査からインターネットによるオンライン回答も可能とした。

なお、結果の集計は、厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）において行った。

## 6 調査票の回収状況等

調査票の配布数及び回収数は次のとおりである。

	配布数	回収数	回収率
第 1 回	43,767	38,554	88.1%
第 2 回	38,523	33,356	86.6%
第 3 回	37,582	32,380	86.2%
第 4 回	34,563	29,582	85.6%
第 5 回	32,830	28,161	85.8%
第 6 回	30,705	27,785	90.5%
第 7 回	29,434	25,397	86.3%
第 8 回	28,511	24,441	85.7%
第 9 回	27,397	24,204	88.3%
<b>第10回</b>	<b>26,141</b>	<b>24,041</b>	<b>92.0%</b>

## 7 利用上の注意

- (1) この概況に掲載の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合がある。  
なお、各図表は集計客体が異なるため、脚注にそれぞれ総数を掲載している。
- (2) 調査回における対象児の年齢は以下のとおりである。

調査回	対象児の年齢
第1回調査	月齢6か月
第2回調査	1歳6か月
第3回調査	2歳6か月
第4回調査	3歳6か月
第5回調査	4歳6か月
第6回調査	5歳6か月
第7回調査	7歳（小学1年生）
第8回調査	8歳（小学2年生）
第9回調査	9歳（小学3年生）
第10回調査	10歳（小学4年生）

注：第7回調査（7歳）は、第6回調査（5歳6か月）から1年6か月後に実施した。

- (3) 表章記号の規約

計数のない場合	—
統計項目のあり得ない場合	・
減少数（率）の場合	△

- (4) 「出生児縦断調査（平成13年出生児）」と「出生児縦断調査（平成22年出生児）」の結果を比較する際は、それぞれを「平成13年出生児」、「平成22年出生児」としている。  
なお、「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」は、平成13年1月10日から同月17日の間及び7月10日から同月17日の間に出生した子を対象としたものである。
- (5) 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴い、学校によっては休校となるなど、例年とは異なる環境下での調査であった。

# 結果の概要

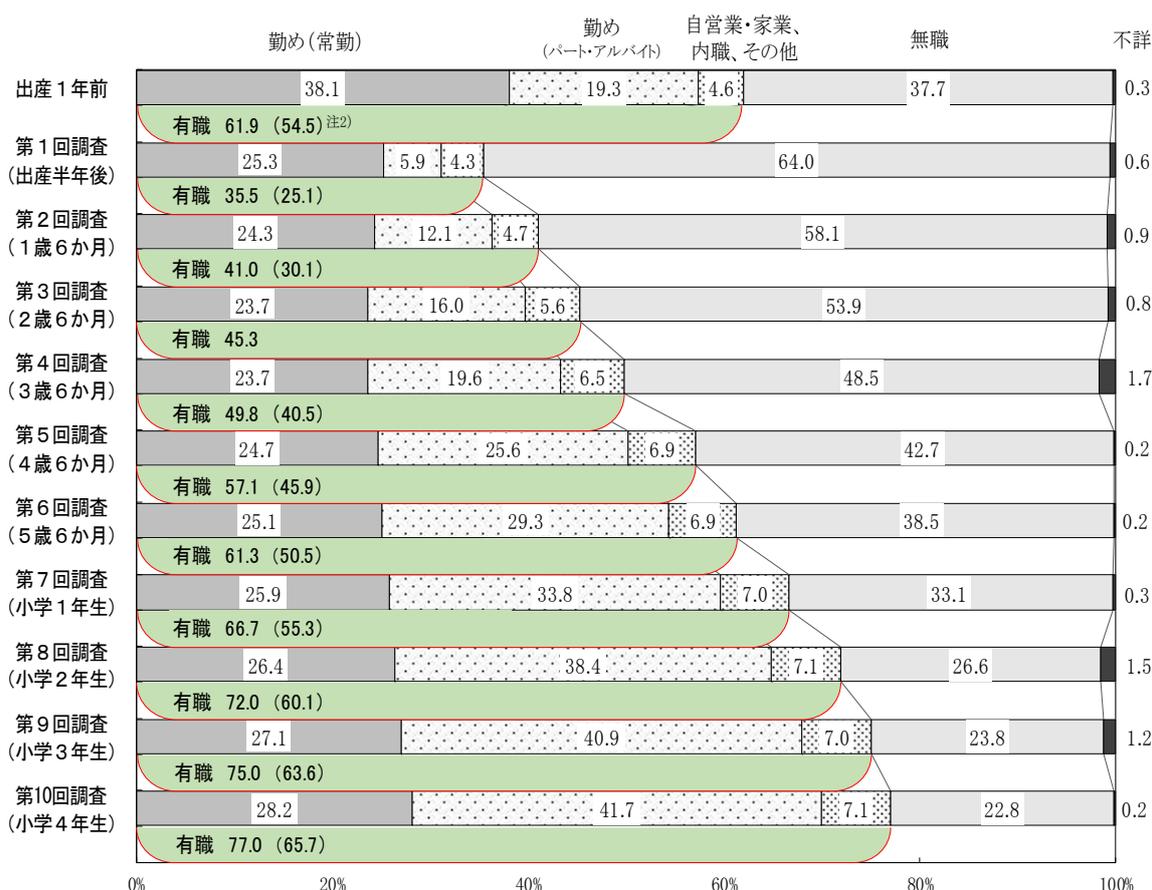
## 1 母の就業状況の変化

母が有職の割合は第10回調査（小学4年生）で77.0%となり、平成13年出生児（第10回）の65.7%に比べて11.3ポイント高い

母が有職の割合は、出産1年前の61.9%が第1回調査（出産半年後）で35.5%に低下したが、その後は年々上昇し、第10回調査（小学4年生）では77.0%となり、平成13年出生児（第10回）の65.7%に比べて11.3ポイント高くなっている。

母の就業状況の変化をみると、「勤め（常勤）」の割合は、第1回調査（出産半年後）の25.3%から第10回調査（小学4年生）の28.2%までゆるやかな上昇傾向であり、「勤め（パート・アルバイト）」の割合は、第1回調査（出産半年後）の5.9%から年々上昇し、第10回調査（小学4年生）では41.7%となっている。（図1）

図1 母の就業状況の変化・世代間比較



注：1) 平成22年出生児の第1回調査から第10回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数 18,974）を集計。

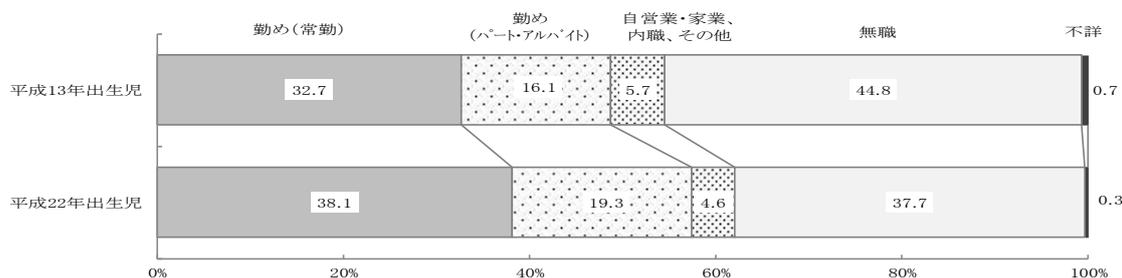
2) ( )内の数値は、平成13年出生児の第1回調査から第10回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数 29,575）を集計したものである。なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母のうち、第1回調査から第10回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は、平成22年出生児では36.5%で、平成13年出生児の25.9%に比べて10.6ポイント高い

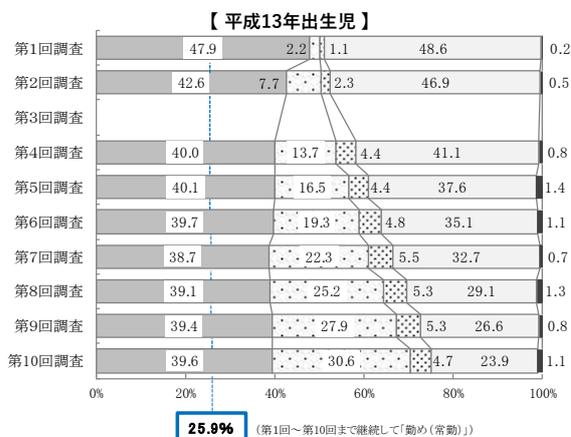
出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母について、第1回調査から第10回調査までの就業状況の変化をみると、平成22年出生児の各回における「勤め（常勤）」の母の割合は平成13年出生児よりも高い割合で推移し、さらに、第1回調査から第10回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は平成22年出生児では36.5%で、平成13年出生児の25.9%に比べて10.6ポイント高くなっている（図2）。

図2 出産1年前の就業状況別にみた母の就業状況の変化・世代間比較

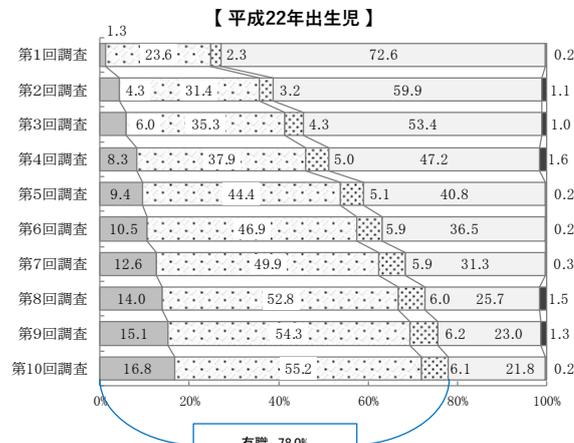
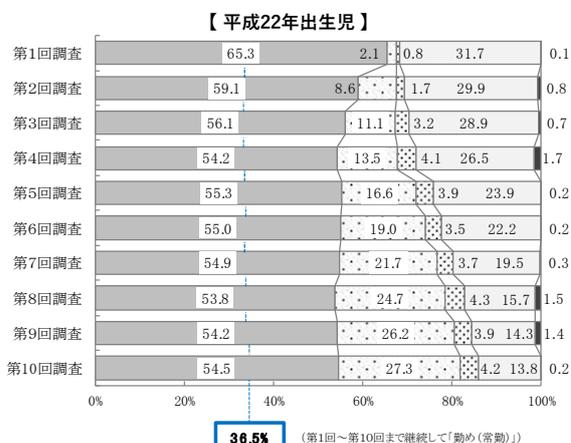
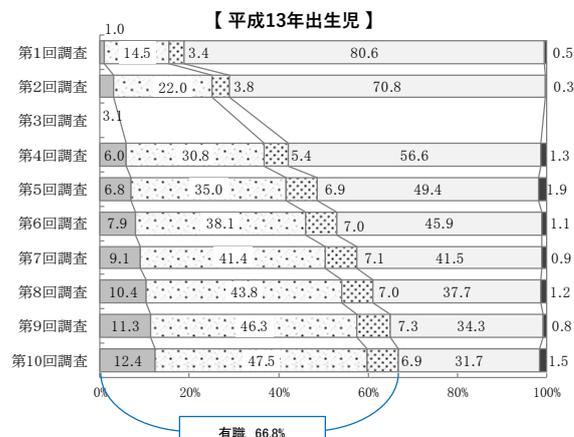
(1) 出産1年前の母の就業状況



(2) 出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母の就業状況の変化



(3) 出産1年前の就業状況が「勤め（パート・アルバイト）」の母の就業状況の変化



注：第1回調査から第10回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（平成13年出生児総数29,575、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」9,661、「勤め（パート・アルバイト）」4,765、平成22年出生児総数18,974、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」7,221、「勤め（パート・アルバイト）」3,653）を集計。なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

## 2 子どもの生活の状況

### (1) 携帯電話（スマートフォンを含む）の保有状況

小学4年生に携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせている割合は32.8%と、平成13年出生児の14.4%に比べて18.4ポイント高く、持たせた時期は「小学1年生から」が31.6%と最も高い

平成22年出生児について、携帯電話（スマートフォンを含む）を「持たせている」割合は32.8%、「持たせていない」割合は67.1%となっている。平成13年児と比較すると、「持たせている」の割合が18.4ポイント高くなっている。

また、平成22年出生児について、携帯電話（スマートフォンを含む）を「持たせ始めた時期」についてみると、「小学1年生から」が31.6%と最も高く、平成13年出生児については「小学4年生から」が34.0%と最も高い。（表1）

表1 携帯電話(スマートフォンを含む)の有無・持たせ始めた時期の世代間比較

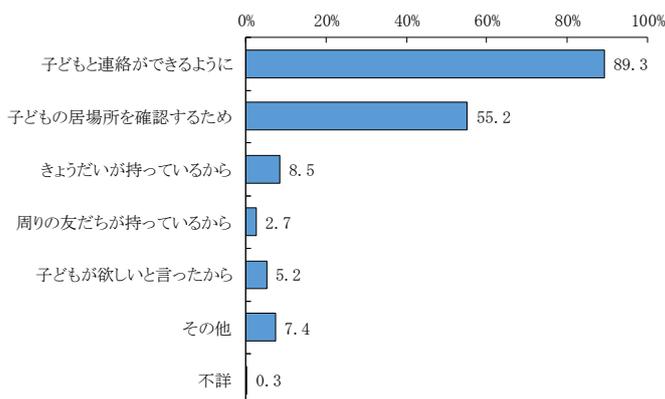
	総数	携帯電話を持たせていない	携帯電話を持たせている	持たせ始めた時期						不詳
				小学校に入学する前から	小学1年生から	小学2年生から	小学3年生から	小学4年生から	不詳	
				(単位:%)						
平成22年出生児										
総数	100.0	67.1	32.8 (100.0)	(5.4)	(31.6)	(26.6)	(25.6)	(10.8)	(0.1)	0.1
男児	100.0	71.9	28.0 (100.0)	(5.1)	(31.2)	(26.1)	(26.2)	(11.3)	(0.1)	0.1
女児	100.0	62.1	37.8 (100.0)	(5.5)	(31.9)	(27.0)	(25.1)	(10.3)	(0.1)	0.1
平成13年出生児										
総数	100.0	85.2	14.4 (100.0)	(3.9)	(26.0)	(16.4)	(19.5)	(34.0)	(0.2)	0.4
男児	100.0	88.3	11.3 (100.0)	(4.0)	(26.2)	(16.3)	(19.5)	(33.8)	(0.2)	0.4
女児	100.0	81.8	17.8 (100.0)	(3.9)	(25.9)	(16.5)	(19.5)	(34.1)	(0.1)	0.4
世代間比較増減(ポイント) (平成22年出生児－平成13年出生児)										
総数		△ 18.1	18.4	(1.5)	(5.6)	(10.2)	(6.1)	(△ 23.2)	(△ 0.1)	△ 0.3
男児		△ 16.4	16.7	(1.1)	(5.0)	(9.8)	(6.7)	(△ 22.5)	(△ 0.1)	△ 0.3
女児		△ 19.7	20.0	(1.6)	(6.0)	(10.5)	(5.6)	(△ 23.8)	(0.0)	△ 0.3

注：第10回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 34,124、平成22年出生児総数 24,041）を集計。

携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせた理由（複数回答）は、「子どもと連絡ができるように」が89.3%と最も高い。

携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせた理由（複数回答）をみると、「子どもと連絡ができるように」が89.3%と最も高く、次いで「子どもの居場所を確認するため」が55.2%、「きょうだいが持っているから」が8.5%の順となっている（図3）。

図3 携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせた理由（複数回答）



注：第10回調査の回答を得た者のうち、携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせている者（総数 7,879）を集計。

## (2) コンピュータゲームの利用状況

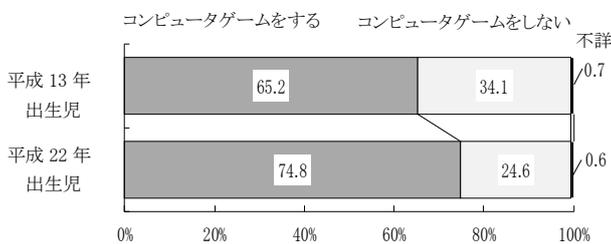
登校日にコンピュータゲームをする割合は74.8%と、平成13年出生児の65.2%に比べて9.6ポイント高く、学年が上がるにつれてゲーム時間が長い

平成22年出生児について、登校日にコンピュータゲームをする割合は74.8%と、平成13年出生児の65.2%に比べて9.6ポイント高くなっている(図4)。

第7回調査(小学1年生)から第10回調査(小学4年生)までのコンピュータゲームをする割合の変化をみると、学年が上がるにつれてコンピュータゲームをする割合が上昇している(図5)。

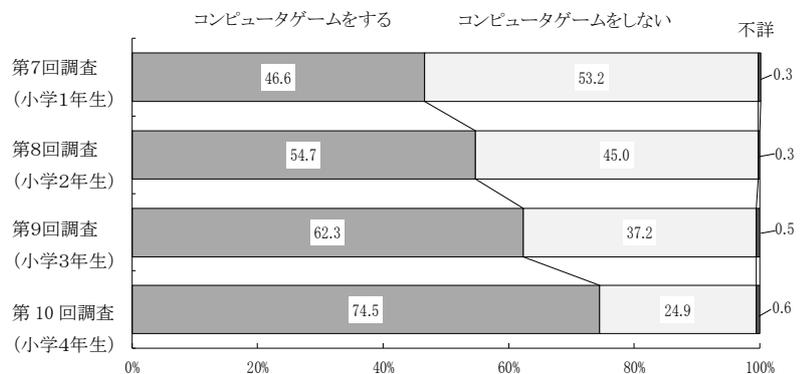
また、コンピュータゲームをする時間別にみると学年が上がるにつれて、コンピュータゲームをする時間が長くなっている(図6)。

図4 コンピュータゲームの利用の有無(登校日)の世代間比較



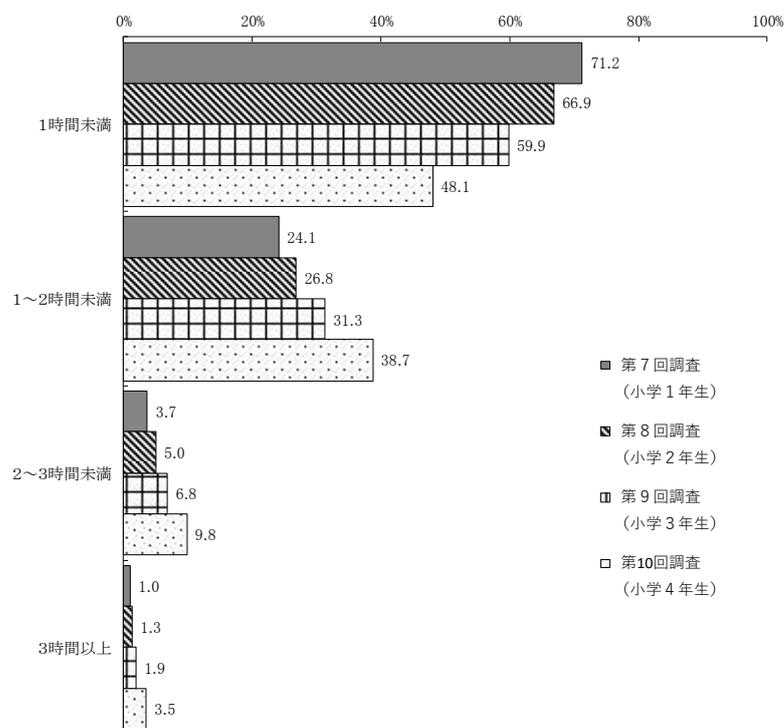
注：第10回調査の回答を得た者(平成13年出生児総数34,124、平成22年出生児総数24,041)を集計。

図5 コンピュータゲームの利用の有無(登校日)の変化



注：第7回調査から第10回調査まですべて回答を得た者(総数20,920)を集計。

図6 コンピュータゲームをする時間(登校日)の変化



注：第7回調査から第10回調査まですべて回答を得た者のうち、コンピュータゲームをする者(第7回 9,739、第8回 11,440、第9回 13,028、第10回 15,589)を集計。

### 3 子どもの日常生活で気になることや悩み

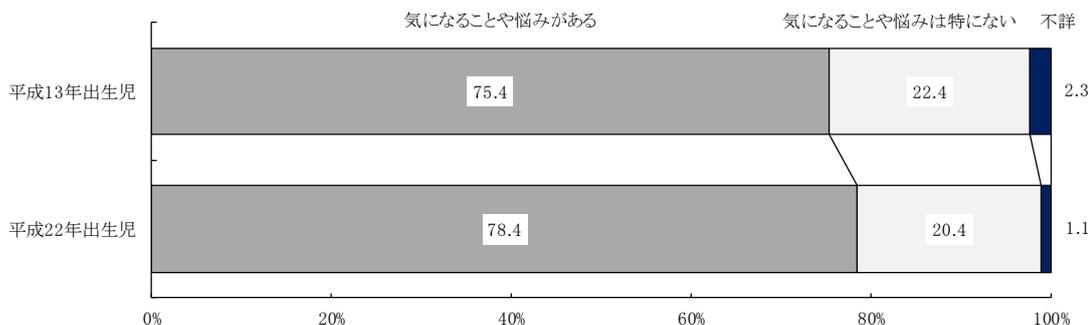
子どもの日常生活で気になることや悩みがある割合は78.4%と、平成13年出生児の75.4%に比べて3.0ポイント高く、学年が上がるにつれて増加

平成22年出生児について、子どもの日常生活で気になることや悩みがある割合は78.4%と、平成13年出生児の75.4%に比べて3.0ポイント高くなっている（図7）。

第7回調査（小学1年生）から第10回調査（小学4年生）までの子どもの日常生活で気になることや悩みがある割合の変化をみると、学年が上がるにつれて気になることや悩みがある割合が増加している（図8）。

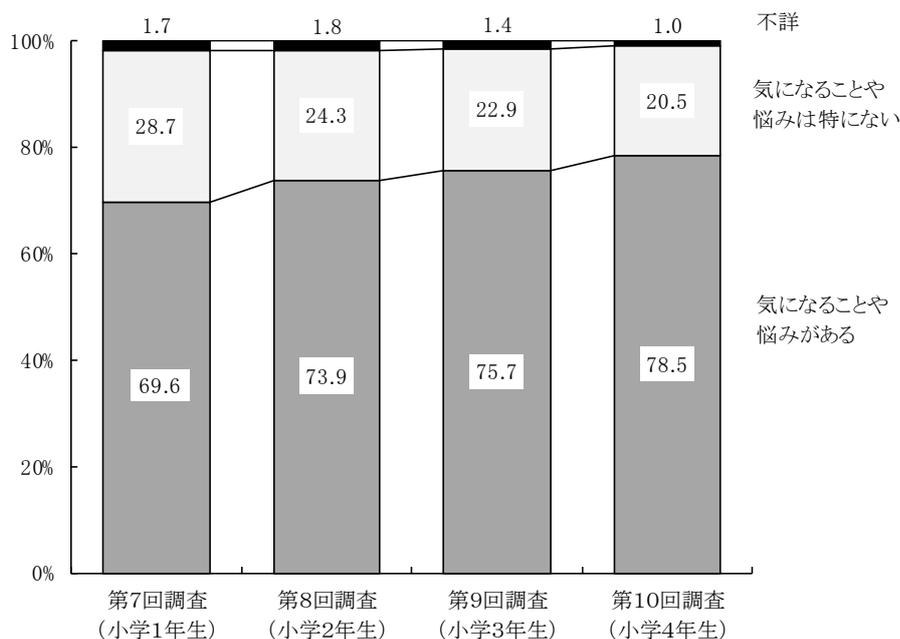
また、子どもの日常生活で気になることや悩みの内容（複数回答）をみると「テレビを見たりゲームをする時間が長い」が58.0%と最も高く、次いで「身体を動かして遊ぶことが少ない」が35.1%となっており、平成13年出生児と比較すると、「テレビを見たりゲームをする時間が長い」が23.6ポイント、「身体を動かして遊ぶことが少ない」が12.0ポイント高くなっている（図9）。

図7 子どもの日常生活で気になることや悩みの有無の世代間比較



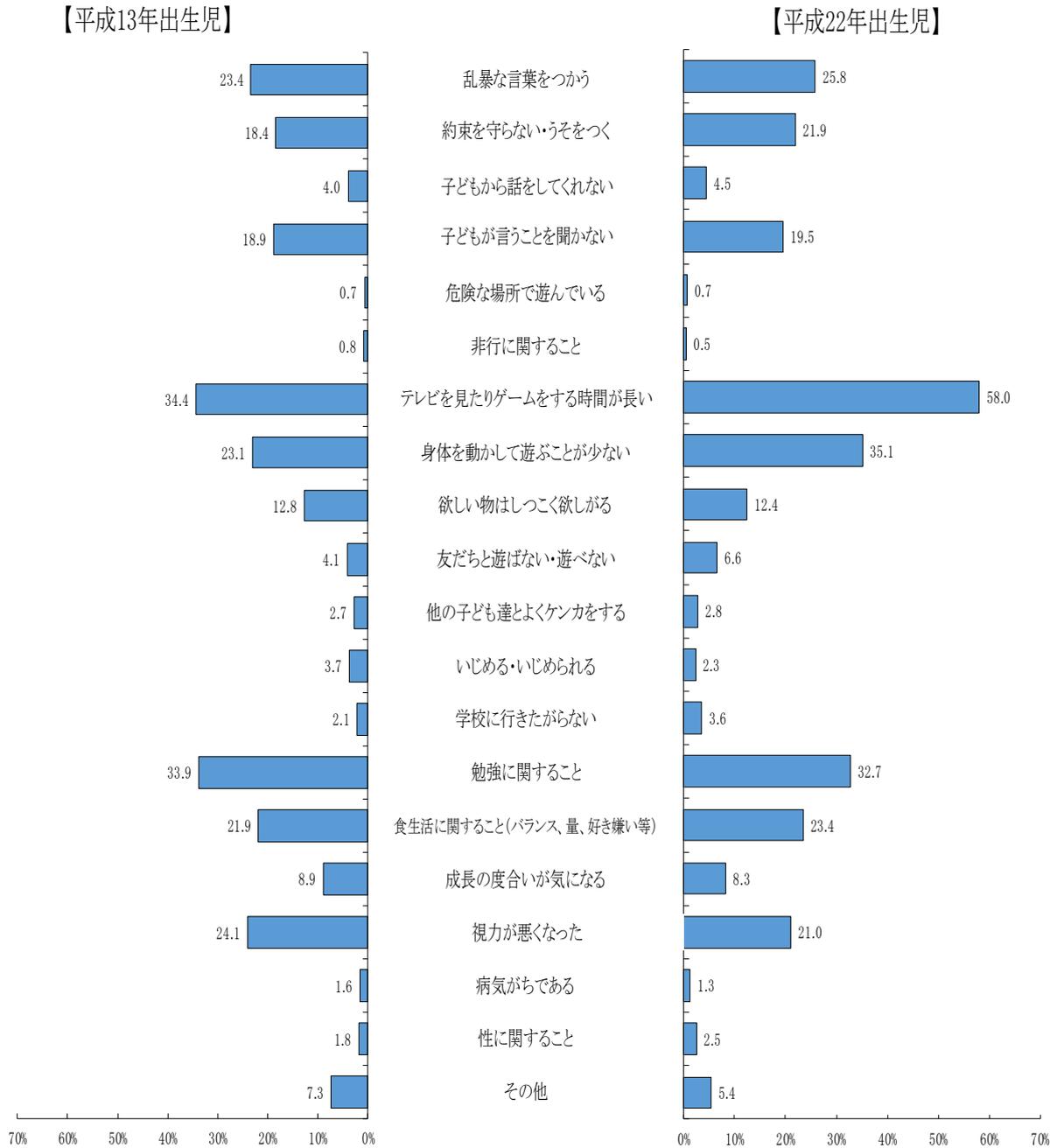
注：第10回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数34,124、平成22年出生児総数24,041）を集計。

図8 子どもの日常生活で気になることや悩みの有無の変化



注：第7回調査から第10回調査まですべて回答を得た者（総数20,920）を集計。

図9 子どもの日常生活で気になることや悩み(複数回答)の世代間比較



注：第10回調査の回答を得た者のうち、気になることや悩みがある者（平成13年児総数25,720、平成22年児総数18,855）を集計。

# 統計表

統計表1 母の就業状況の変化・世代間比較（3頁図1）

（単位：人）

就業状況 調査回	平成22年出生児						平成13年出生児	
	総数	勤め (常勤)	勤め (パート・ アルバイト)	自営業・ 家業、内職、 その他	無職	不詳	総数	有職
出産1年前	18 974	7 221	3 653	880	7 162	58	29 575	16 112
第1回調査(出産半年後)	18 974	4 799	1 115	817	12 134	109	29 575	7 427
第2回調査	18 974	4 604	2 291	886	11 017	176	29 575	8 913
第3回調査	18 974	4 498	3 032	1 059	10 229	156	29 575	・
第4回調査	18 974	4 492	3 723	1 236	9 194	329	29 575	11 981
第5回調査	18 974	4 686	4 848	1 303	8 093	44	29 575	13 568
第6回調査	18 974	4 768	5 551	1 312	7 299	44	29 575	14 949
第7回調査	18 974	4 912	6 408	1 332	6 273	49	29 575	16 358
第8回調査	18 974	5 002	7 295	1 355	5 041	281	29 575	17 762
第9回調査	18 974	5 139	7 756	1 332	4 522	225	29 575	18 814
第10回調査	18 974	5 343	7 917	1 341	4 333	40	29 575	19 439

注：第1回調査から第10回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者を集計。  
なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

統計表 2 出産1年前の就業状況別にみた母の就業状況の変化・世代間比較（4頁図2）

（単位：人）

調査回	就業状況	総数	勤め (常勤)	勤め(パート・ アルバイト)	自営業・家業、 内職、その他	無職	不詳	(再掲) 第1回調査から 第10回調査まで 継続して「勤め (常勤)」の母
<b>(1) 出産1年前の母の就業状況</b>								
	平成13年出生児	29 575	9 661	4 765	1 686	13 250	213	
	平成22年出生児	18 974	7 221	3 653	880	7 162	58	
<b>(2) 出産1年前の就業状況が「勤め(常勤)」の母の就業状況の変化</b>								
	平成13年出生児							
	第1回調査	9 661	4 624	210	111	4 697	19	・
	第2回調査	9 661	4 119	744	223	4 531	44	・
	第3回調査	・	・	・	・	・	・	・
	第4回調査	9 661	3 863	1 320	423	3 975	80	・
	第5回調査	9 661	3 872	1 597	427	3 631	134	・
	第6回調査	9 661	3 840	1 864	465	3 388	104	・
	第7回調査	9 661	3 741	2 157	530	3 163	70	・
	第8回調査	9 661	3 777	2 438	509	2 816	121	・
	第9回調査	9 661	3 808	2 698	512	2 565	78	・
	第10回調査	9 661	3 830	2 959	458	2 306	108	2 500
	平成22年出生児							
	第1回調査	7 221	4 716	153	56	2 292	4	・
	第2回調査	7 221	4 266	620	121	2 158	56	・
	第3回調査	7 221	4 050	800	231	2 089	51	・
	第4回調査	7 221	3 916	975	298	1 912	120	・
	第5回調査	7 221	3 995	1 201	284	1 728	13	・
	第6回調査	7 221	3 974	1 374	256	1 600	17	・
	第7回調査	7 221	3 962	1 567	268	1 405	19	・
	第8回調査	7 221	3 886	1 785	309	1 136	105	・
	第9回調査	7 221	3 912	1 893	282	1 035	99	・
	第10回調査	7 221	3 934	1 970	301	998	18	2 636
<b>(3) 出産1年前の就業状況が「勤め(パート・アルバイト)」の母の就業状況の変化</b>								
	平成13年出生児							
	第1回調査	4 765	49	689	162	3 842	23	
	第2回調査	4 765	150	1 046	179	3 374	16	
	第3回調査	・	・	・	・	・	・	
	第4回調査	4 765	284	1 467	257	2 696	61	
	第5回調査	4 765	322	1 669	329	2 355	90	
	第6回調査	4 765	376	1 817	333	2 186	53	
	第7回調査	4 765	434	1 975	336	1 977	43	
	第8回調査	4 765	494	2 086	334	1 796	55	
	第9回調査	4 765	539	2 208	347	1 635	36	
	第10回調査	4 765	590	2 264	329	1 510	72	
	平成22年出生児							
	第1回調査	3 653	49	861	83	2 652	8	
	第2回調査	3 653	157	1 148	118	2 189	41	
	第3回調査	3 653	218	1 291	158	1 949	37	
	第4回調査	3 653	304	1 384	181	1 726	58	
	第5回調査	3 653	345	1 623	188	1 489	8	
	第6回調査	3 653	382	1 713	215	1 334	9	
	第7回調査	3 653	459	1 824	214	1 144	12	
	第8回調査	3 653	512	1 928	219	939	55	
	第9回調査	3 653	553	1 984	225	842	49	
	第10回調査	3 653	613	2 016	222	795	7	

注：第1回調査から第10回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者を集計。

なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

統計表3 携帯電話（スマートフォンを含む）の有無・持たせ始めた時期の世代間比較（5頁表1）

（単位：人）

	総数	携帯電話を持たせていない	携帯電話を持たせている	持たせ始めた時期						不詳
				小学校に入学する前から	小学1年生から	小学2年生から	小学3年生から	小学4年生から	不詳	
				平成22年出生児						
総数	24 041	16 139	7 879	422	2 489	2 097	2 015	847	9	23
男児	12 369	8 894	3 462	177	1 080	904	906	391	4	13
女児	11 672	7 245	4 417	245	1 409	1 193	1 109	456	5	10
平成13年出生児										
総数	34 124	29 076	4 922	194	1 282	807	959	1 672	8	126
男児	17 713	15 645	2 004	80	526	326	390	678	4	64
女児	16 411	13 431	2 918	114	756	481	569	994	4	62

注：第10回調査の回答を得た者を集計。

統計表4 携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせた理由（複数回答）（5頁図3）

（単位：人）

	総数
総数	24 041
携帯電話を持たせている	7 879
子どもと連絡ができるように	7 038
子どもの居場所を確認するため	4 349
きょうだいが持っているから	670
周りの友だちが持っているから	209
子どもが欲しいと言ったから	408
その他	582
不詳	22
携帯電話を持たせていない	16 139
不詳	23

注：第10回調査の回答を得た者を集計。

統計表5 コンピュータゲームの利用の有無（登校日）の世代間比較（6頁図4）

（単位：人）

	平成22年 出生児	平成13年 出生児
総数	24 041	34 124
コンピュータゲームをする	17 980	22 255
コンピュータゲームをしない	5 918	11 643
不詳	143	226

注：第10回調査の回答を得た者を集計。

統計表6 コンピュータゲームの利用の有無（登校日）の変化（6頁図5）

（単位：人）

	第7回調査	第8回調査	第9回調査	第10回調査
総数	20 920	20 920	20 920	20 920
コンピュータゲームをする	9 739	11 440	13 028	15 589
コンピュータゲームをしない	11 122	9 411	7 791	5 213
不詳	59	69	101	118

注：第7回調査から第10回調査まですべて回答を得た者を集計。

統計表7 コンピュータゲームをする時間（登校日）の変化（6頁図6）

（単位：人）

	第7回調査	第8回調査	第9回調査	第10回調査
コンピュータゲームをする	9 739	11 440	13 028	15 589
1時間未満	6 938	7 649	7 802	7 496
1～2時間未満	2 347	3 071	4 082	6 031
2～3時間未満	356	567	891	1 521
3時間以上	98	153	253	541

注：第7回調査から第10回調査まですべて回答を得た者を集計。

統計表 8 子どもの日常生活で気になることや悩みの有無の世代間比較（7頁図7）

（単位：人）

	平成22年 出生児	平成13年 出生児
総数	24 041	34 124
気になることや悩みがある	18 855	25 720
気になることや悩みは特にはない	4 914	7 630
不詳	272	774

注：第10回調査の回答を得た者を集計。

統計表 9 子どもの日常生活で気になることや悩みの有無の変化（7頁図8）

（単位：人）

	第7回調査	第8回調査	第9回調査	第10回調査
総数	20 920	20 920	20 920	20 920
気になることや悩みがある	14 552	15 458	15 832	16 424
気になることや悩みは特にはない	6 009	5 083	4 790	4 286
不詳	359	379	298	210

注：第7回調査から第10回調査まですべて回答を得た者を集計。

統計表 10 子どもの日常生活で気になることや悩みの世代間比較（複数回答）（8頁図9）

（単位：人）

	平成22年 出生児	平成13年 出生児
気になることや悩みがある	18 855	25 720
乱暴な言葉をつかう	4 866	6 006
約束を守らない・うそをつく	4 128	4 727
子どもから話をしてくれない	851	1 029
子どもが言うことを聞かない	3 669	4 858
危険な場所で遊んでいる	124	184
非行に関すること	89	202
テレビを見たりゲームをする時間が長い	10 929	8 852
身体を動かして遊ぶことが少ない	6 612	5 938
欲しい物はしつこく欲しがる	2 340	3 280
友だちと遊ばない・遊べない	1 252	1 061
他の子ども達とよくケンカをする	526	693
いじめる・いじめられる	428	958
学校に行きたがらない	675	535
勉強に関すること	6 167	8 720
食生活に関すること(バランス、量、好き嫌い等)	4 403	5 629
成長の度合いが気になる	1 573	2 299
視力が悪くなった	3 953	6 210
病気がちである	240	410
性に関すること	474	462
その他	1 023	1 868

注：第10回調査の回答を得た者を集計。

## 用語の定義

### (1) 同居者

次の者は含まない。

- ① 長期（概ね3か月以上）にわたって不在にしている者。
- ② 現在不在で不在期間が長期にわたることがわかっている者。  
ただし、①、②の者で途中定期的に帰宅する者は同居者としている。

### (2) 就業状況

「有職」

勤め（常勤）、勤め（パート・アルバイト）、自営業・家業、内職、その他を合わせたもの。  
育児休業中等の休業を含む。

「勤め（常勤）」

事業所の所定労働時間を通じて勤務する者。

「勤め（パート・アルバイト）」

同一事業所の一般の労働者より1日の所定労働時間が短い又は1日の所定労働時間が同じでも1週の所定労働日数が少ない者。

「無職」

家事（専業）、無職、学生を合わせたもの。